

# 明日への扉

No.8

*Kazuyuki Taguchi*

田口 和行さん

昭和57年鹿屋市生まれ。鹿屋高校卒業後、平成13年4月鹿児島大学教育学部(数学専修)に入学。平成18年に寿の実家に戻り、作曲活動を本格的に開始。クラシックの流れで新しい音楽を追求する「現代音楽」の分野で高く評価されている。(33歳)



音楽を楽しめる「空間」を  
より多くの人に提供したい



数学的理論に基づいた独自のシステムで作曲を行う。都市部の演奏家からの信頼も厚く、楽譜は海外でも出版された。鹿屋に住みながらのこうした幅広い活動に、国内外から驚きと賞賛の声が上がっている。

小学生からシンガーソングライターになるのが夢で、小学6年生ごろから独学で作詞・作曲のまね事をはじめ、中高生時代も文化祭などで歌っていました。意外かも知れませんが大学は数学科を専攻。数学が好きだったことと、数学科を出ているミュージシャンが多かったことが、その理由でした。

大学の前半は作曲しながらライブばかりしていました。次第に編曲もするようになったり、友達が制作したパソコンゲームのBGMを依頼され作曲したりと、次第に作曲の幅が広がっていききました。

でもそれまで音楽を習ったことは一切無く、全くの独学だったので、クラシックの知識は皆無。編曲やBGMには、やはりクラシックを知らないダメだと思って勉強し始め、そこから「現代音楽」というジャンルに出会い、数学や建築の理論で作曲できることを知りました。数学を学んできた私は、抵抗無く自然に受け入れることができ、その手法を用いて作曲するようになりました。

平成18年に鹿屋に戻ってやり始めたのは、自分がステージに立つのではなく、楽譜を他者に委ねる音楽です。全くつてもコネも無い中で助かったのはインターネットで

た。平成21年に現音作曲新人賞富樫賞を受賞したのを機に近況報告代わりにツイッターを始めたところ、多くの知り合いを得て、今では作曲依頼も年に10曲以上いただくようになり、発表する場も増えました。また、平成24年からは、鹿児島に日本のトップクラスの演奏家を招き、世界でもやったことが無いプログラムを持ち込んだ自主公演も継続的に企画しています。これは都市部から大きな反響を呼んでいます。

今年、国民文化祭開会式のオーケストラ編曲を任せていただき、また松永太郎さん演出のミュージカル「花いくさ」の音楽監督も務めているため、大変多忙な毎日ですが、様々な業種の方々と一つのステージを作り上げる醍醐味を楽しんでいます。

「流されるから遠くに行けると、あるクリエイターは言いました。とにかく我が張る芸術の世界。その中で自分の主張だけでなく人の意見を受け入れると、結果的に思いも寄らない所へ行けるという意味ですが、私も実感しています。

鹿屋に住みながら世界に発信できる時代。地方からでも、新しい創作に触れられる機会を一つでも多く作れたらと思っています。